

すゞむし

Vol. I, No. 9

1951年8月

倉敷昆虫同好会

蠨が自分の場所を占有する習性

廣瀬義躬

蠨が自分の場所を占有すると云う習性は前から知られている事実であるが現在迄にこの習性を観察されているのは山頂附近に於いてこの習性を顕著に示すキアゲハの他にカラスアゲハにもキアゲハと同じ様なことが多少認められている。その他、アオスジアゲハ、オナガアゲハ、クロアゲハ、モンキアゲハ等場所によってアゲハチョウ科の大部分が山頂附近に於いて認められるようであるがこれは更に検討を要する。又普通道路に、広場等に於てはタテハチョウ科のルリタテハ、アカタテハ、クンヤクチョウ等が認められて居り、これらの習性も示すものはいずれも雄の個体であることとも確認されている。又樹木の空地に於ける二三本の樹本の上を占有するアオバセセリ等もある。その中でもキアゲハは特に顕著であつて倉敷附近に於いては福山山頂附近で常に観察することが出来る。同じくカラスアゲハは倉敷附近には個体数ケくないので観察する村名に恵がまれにくいが上記福山山頂に於いて時々見かけることがある。又タテハチョウ科のアカタテハについてはこの習性は我々が普通よく観察するところであつて、特に石上等に静止し飛び立つと一定のコースを記し他の蝶やトンボ等がその地帯に侵入すると激しく追迫する。その他タテハチョウ科に於いては上記の三種の他に同じく福山で観察ヒメアカタテハがこの習性を顕著に示すのをよく観察した。VII-29, 1951 筆者は福山に於て上記の他の種と多少異なつたアオスジアゲハが樹木の空地を

占有する習性を観察した。すなわち観察時刻は午後2時頃で周囲は松やその他の灌木が多数生えており、地上にはササが密生している一向四方位の空地でニヶ所あり近接している。このアオスジアゲハは地上1~1.5m位の上をゆるくこぎずみに顔をふるめずような状態で旋回したり又元に引き返したりするのう動作をくり返



して飛んたいる。観察中蜂木には止まるようにも見えたが止まらず5分間位の動作を続けて観察を中止し後10分後位にきてみると、そう一つ向うの空地に移動したらしくそこで又同じような動作を続けること5分程度、后又振れておどろかすと又こちらの空地に移動した。トレボ葉がまると軽く追うようにみえるがタテハチョウ科やその他の多種のように激しく追廻するともうような動作は示さない。この動作を続けて10分後捕獲してみるとそれは他の蝶類が示すこの習性一致した本種1分がかなり飛びをしたらしく、観察もはげ翅を多少破損した個体であった。なお当日は南西の風や、弱く気温32°Cであつた。以上私の知見を述べ方が不充分な点が多いのでこれは今後の観察研究に待たい。私の観察例の他に観察例をお持ちの方ぜひお知らせ下さい。このような習性は他の種にも見られる可能性があるので私達の観察によつて新事実を観察し生態学的意義を検討研究して行こう。

※ 新長虫(1950) Vol. 3, No. 10 24P (43ペル)

※ 新村太郎著 “蝶の生活(1951) 18~21P



鶴形山で クキバズズメ 採集

1951年7月28日
友野、白神両氏と共に鶴形山公園へ遊覧に行つた時、阿知神社境内で羽化直後のクキバズズメ *Marumba sperchius* Ménétries を採った。

当地方では本種が採集されたことは少ないと思ひますので一応御報告して置きます。(小野 洋)

クロヒカゲモドキを採る

去る7月25日、川上郡松原村巻木にて。その日は朝の内雨が降りそうでしたが、しだりに天気はよくなり午後には、じまひ空に晴雨か

ところどころ見え谷向にはカラスアゲハ、クロアゲハ、雪が飛び初めた。その日川面から6Km距離の巻木と云う所に於て、木の木の下の草を網ひたところ、ヒカゲチョウ科が2、3、飛び出したので、それを手にして我が倉敷へ帰った、そして標本にしたものを、小野洋氏に見てもらつた所、それがクロヒカゲモドキでした。(近藤 光宏)

バックナンバー分譲



すずむし

第5号 5.00 8.1
第6号 " " " " " " " "



第7号別冊

鶴形山の昆虫

10.00 8.1

各号にも在庫若干。



二 化 蝶 虫 の 生 殖 器

中塚憲次・河田利雄

先に深谷博士が本誌 Vol. 1, No. 3 に蝶虫のキンタマなる題目で少なからずこの方面の御照会があつたが、その文章の中にあつたと記憶してゐるが、顕微鏡下のキンタマに〇君、△君がかいりついて且をそれよりは小さなかつた(?)とあつたと思うが、およそ生物なるものにあつては此方面の問題には一応興味がある様である。

そこで筆者等もやはり此方面に興味があつて(異つた意味の)、1化期発育中の幼虫の生殖器(キンタマと云うのは少々エロチックな感もなりではなりから生殖器と云ふことにする)が、2化期休眠期にある幼虫の大きさとどう様か時期

即ち孵化後幾日目に同一の或はそれに近い時期にあるか(深谷, 1951によれば2化期休眠幼虫の生殖器は十分成熟せしめて休眠に入つてゐるとの報告がある)に就いてそれと取くらべてみた。以下その概要を述べる。

例2化期休眠幼虫(越冬中幼虫)の生殖器 Gonad は大体含穀産卵のもので其の容積162.1 (深谷, 1951)位で休眠に入つてゐるものと見られるが、1化期幼虫に於ては孵化後大体25〜27日位の所がその大きと一致する様である。

その後1化期幼虫の生殖器はぐんぐん發育し孵化後35〜40日目には317.0前後の所に達し熟化することが觀察された。

以上この様な事實は非常に興味のある問題であるから今後この方面の事情はついてもっと深くやつてみたい。

尚、詳細はいつか人らかの形で発表する予定である

(深谷博士の生殖器に関する問題は「農学研究」NO. 40に出ているからそれをも参照されたい。



道 後 山 蝶 類 採 集 品 目 録

1951年7月21日 道後山へ採集に行きましたのでその時の採集品を御参考までに報告しておきます。

アゲハ

クロアゲハ

スサボリヤマキチュウ (お寂小野採集)

スジカロシロチュウ

コムラサキ

キアガハ

カラスアゲハ

モンシロチュウ

モンキチュウ

アカタテハ

シータテハ (小野 祥史)

オオウラギンズジヒョウモン (小野)

ウラギンヒョウモン

ヒョウモンモドキ (早稲田のみやま)

ジウザンミドリシジミ (小野 祥史)

トラフシジミ

ミヅミナモト

オオヒカゲ (小野 祥史 両方共)

ヒメキコダラセセリ

その他でマダラチョウ 算数種目画、ゼフィルス はむく 時期遅し、スミナガシには時期早しの感であった。なお、その他の県の採集品の中で目ぼしいものは、オオヨリスジハナカミキリ、ハンノキカミキリ、オオマダラコガネ、オオモンキゴミムシダコシヒメマルカメムシなどいろいろのものである。

ミドリヒョウモン

クミガタヒョウモン

オオウラギンヒョウモン

オオミドリシジミ

ウラナミアカミヅミ

ウラマダラシジミ

ルリシジミ

ウラナミジャノメ (小野 祥史)

ヘリグロナバネセセリ

編集後記

いよいよお盆のころの頃になりました。左記福山への採集会へはぜひふるって参加しようではありませんか。本集集場所、時刻は駅の矢張り自動車乗場に午前 時近に集まること。又会費は半学年小学生 60 円、小学生以上 90 円 お山川先生迄互恵納めて下さい。

(R.T)



倉敷昆虫同好会 九月例会

去るの月 8 日に例会が行われ、まじは出席されなかった方の為、その要旨、決定事項を知せします。

要旨

- (1) 自己紹介 (2) 役員改選
 - (3) 会費の件
 - (4) 季刊雑誌発行の件
 - (5) 秋期昆虫採集の件
- 決定事項
(2)の役員改選では

連絡係 ----- 若林三郎

編集係 ----- 小野 祥史
高野 達郎
近藤 光宏
友野 良一

会計係 ----- 山川 東平

発行監理 --- 小野 祥

- (3)の会費の件では季刊雑誌発行が決定(年1回)したので、会費は小学生以下 10 円、小学生以上 15 円に値上
- 西では 9 月 30 日 福山行に決定

すずむし 第一巻 第九

昭和 26 年 8 月 15 日 印刷

昭和 26 年 9 月 16 日 発行

編集者 小野 祥

友野 良一

印刷 友野 良一

発行所 倉敷西小学校理科

(非売品) 倉敷昆虫同好会